

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立長崎東中学校
生徒数		118名
各教科の状況		
国語	概況 改善策	平均正答率は95%で、無解答率もほとんどないことから、問題に取り組む姿勢、基礎的な理解力ともに身につけている。「封筒の書き方を理解して書く」問題のみ正答率が86%と9割を切っており、生活習慣を考慮した指導も今後行っていく。
数学	概況 改善策	平均正答率は89%であった。求値問題や数式の処理のほとんどが95%以上の正答率であり、総合的に数式を解釈する問題もよくできていた。一方で、グラフや資料を読み取り、理由を説明する問題は無解答の生徒もあり、正答率がやや低かった。情報の読み取りはできているものの、文章として答えることができている答案もあったので、授業の中で自分の考えを表現する機会を増やしていく。
英語	概況 改善策	[英語]の平均正答率は83%、[英語「話すこと」]の平均正答率は49%であり、全国や県の正答率を大きく上回った。言語や文化についての知識・理解や外国語理解の能力においては高い力を示していたが、聞いたことや読んだことについて表現する活動において少し課題がある。書くことにおいて、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く機会を増やしていく。また、話すことにおいては、日頃の英語でのやり取りの中で、主語と動詞を含めた文の形で答える習慣をさらに意識させていく。
質問紙調査の状況		「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合が95%以上、「自分には良いところがある」の割合も85%を超えている。読書が好きな生徒の割合が極めて高く、「1当てはまる」の回答は61%に及び。また、外国のことについて高い興味・関心を持っている生徒が、長崎県や全国の結果を大きく上回り85%近くいる。また、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する」活動に取り組んでいると回答した生徒、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んだ」生徒の割合は、県や全国の結果を大きく上回っている。

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立佐世保北中学校	
生徒数	113名	
各教科の状況		
国語	概況 改善策	平均正答率は91%であった。各領域において知識・技能の定着がみられた。しかし、適切な情報を取り出し、正確に書く問題に対しては、十分な解答ができない生徒がいた。今後は、問いに対する答えとして必要な条件を過不足なく読み取り、記述する力を育成していく必要がある。
数学	概況 改善策	平均正答率は86%であった。各領域においては、数と式、図形より関数や資料の活用の領域の正答率が低い。中でも、長い説明文からグラフの内容を読み取る問題とグラフを読み取って説明する問題の正答率が低かった。今後は、文章を落ち着いてしっかり読み、題意を理解する力をつけると共に、自分の考えを論理的に文章で説明する力を育成する必要がある。
英語	概況 改善策	平均正答率は80%であった。「聞くこと」の領域では正答率が高かったが、まとまりのある文を読んで大切な部分を理解する問題や、書かれた内容に対して、自分の考えを表現する問題では、十分な解答ができない生徒がいた。今後は、長い英文に触れる機会を増やし、自分の考えを正確に伝えられる力を育成する必要がある。
質問紙調査の状況	平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒が48%（県平均29%）で、1時間未満の生徒が11%（県平均34%）であった。「数学の勉強は好きですか」に「当てはまる」と回答した生徒が48%（県平均32%）と、学習に意欲的に取り組んでいる生徒の割合が高いことがわかる。	

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立諫早高等学校附属中学校	
生徒数	115名	
各教科の状況		
国語	概況 改善策	平均正答率は92%であった。「知識」「活用」双方の問題についても概ねよくできている。文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えることや文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつことなどがよくできている。新聞記事から事実や主張を読み取り、自分の考えを書く活動を工夫しながら継続していく。
数学	概況 改善策	平均正答率は89%であった。反比例の関係を式で表すことや、与えられた説明を振り返って考え式変形の目的を捉えることなどはよくできている。一方、日常生活の事象を考察する場面で問題解決の方法を考え数学的に説明することに課題がある。日常生活の事象から情報を読み取り、学んだことと結び付けて数学的に問題解決するような題材を取り入れる授業づくりに努める。
英語	概況 改善策	平均正答率は81%であった。まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することなどはよくできている。一方、与えられたテーマについて考えを整理しまとまりのある文章を書くことについては課題がある。理由を明らかにしながら自分の考えを書く活動を計画的に設定していく。「話すこと」については、平均正答率50%であった。基本的な表現を理解して正しく応答することについては、全国の値を下回っており、文法事項に誤りがある回答が多かった。正しく伝えることに重点を置いて指導していく。
質問紙調査の状況	「自分にはよいところがある」や「人の役に立つ人間になりたい」「自分で計画を立てて勉強する」などは、全国や県の値よりもその割合が高く全体的に良好である。一方、「学校に行くのは楽しい」にあてはまらないと回答した生徒が4名おり、生徒観察や心理尺度等により支援の必要な生徒を見だし具体的方策を立てて支援を行う。	